

| | | | |
|--------------------------|--|----------------|-------------|
| 授業科目名 | 人権と保育 | 担当教員名 | 秋元 洋祐 |
| 科目区分 | 基礎科目 | 施行規則に定める科目区分 等 | 外国語、体育以外の科目 |
| 必修・選択/単位数 | 必修 / 1単位 (15時間) | 授業方法/担当形態 | 講義 / 単独 |
| 開講学年/学期 | 1年 後期 (3期) / 年間開講数 1講座 | 特記事項 | |
| 授業の概要 及び 全体目標 | 本講義の目標は、保育者としての人権意識を高めることにある。保育者には、人権問題に関する正確な理解と対応策が求められる。現代の社会では、被差別部落出身による結婚差別や国籍による子供の差別が未だに残されている。保育の現場でも、障がい児の受け入れが問題になる。障がい児を受け入れる際に、幼稚園教諭や保育士は、児童の成長発達と安全の確保に配慮する必要がある。本講義では、これらの人権問題の裁判例を取り上げ、保育現場での対応策を考えられるように、自らの人権意識の深化や充実を目指す。 | | |
| 到達目標 | 人権問題は、人々の様々な差別意識から生まれる。この人権問題について、実際に争われた裁判例を題材とし、人権保障の重要性を学んでいく。また、本校のDPで示されているように、授業の際に質疑応答を行い、専門知識・技能を活用して問題解決能力を身につけたり、自分の思いや考えを的確に表現できたりすることも目標とする。 ①社会生活での人権問題を理解できる。 ②人権保障の重要性を理解できる。 ③保育現場の人権問題について、解決方法を考えることができる。 ④保育者の立場から、自分の思いや考えを説明することができる。 | | |
| テキスト | 使用しない | | |
| 参考書・ 参考資料等 | 「いちばんやさしい憲法入門(第6版)」初宿正典・高橋正俊・米沢広一・棟居快行 (有斐閣、2020年) 毎回授業用プリントを配布する。 | | |
| 成績評価の方法 | ○理解度・到達度チェック(筆記形式) : 80% ○理解度確認(授業での質疑応答・コメントシートの提出) : 20% | | |
| 授業外(事前・事後)学習の方法、オフィスアワー等 | ・日頃から新聞等の社会面で人権に関わる問題を読み、社会との関係に関心をもつ(予習1時間)。 ・区切りごとに復習問題を配布するので、授業用プリントを参考に取り組む(復習3時間)。 ・授業に関する質問は、学務室経由でお答えします。 | | |
| 授業計画 | 授業の内容 | 到達目標番号 | |
| 第1回 | 子どもの人権 バイクの免許取得が校則で禁止されていた事案を題材に、子どもの人権保障 | ① | |
| 第2回 | 同和教育 被差別部落出身によって婚約が破棄された事案を題材に、同和教育 | ①,② | |
| 第3回 | 男女平等 会社が男女で定年に差異を設けていた事案を題材に、男女差別の問題 | ①,② | |
| 第4回 | 差別表現 朝鮮学校に対してヘイトスピーチがなされた事案を題材に、差別表現の問題 | ②,③ | |
| 第5回 | 保育上の人権 歩行障がいを理由に幼稚園の就園申請が不許可とされた事案を題材に、障がい児の教育を受ける権利 | ②,③,④ | |
| 第6回 | 保育上の人権 脳の障がいを理由に普通保育園の入園申込みが不許可とされた事案を題材に、障がい児の成長発達権 | ②,③,④ | |
| 第7回 | 保育上の人権 呼吸器の障がいを理由に普通保育園の入園申込みが不承諾とされた事案を題材に、障がい児の保育を受ける権利 | ②,③,④ | |
| 第8回 | 保育上の人権 後期のまとめ ○理解度・到達度チェック(筆記形式) | ②,③,④ | |